

みくびびだより

平成14年6月20日
御首神社社務所



御挨拶

謹啓 初夏を迎え御首の杜も緑鮮やかに、若く力強い息吹に包まれる季節となりました。皆様方には愈々御清祥の事とお慶び申し上げます。

皇孫敬宮愛子内親王殿下が御誕生されてよりお健やかなご成長を続けられ、既に三月には「お箸初めの儀」が行われました。先行き不透明な現代にあつては明るいニュースであり、今後の皇室の益々の弥栄をご祈念申し上げます。

去る四月より新学習指導要領が施行され、完全学校週五日制が実施されました。この新要領には「歴史に対する愛情を育む」など評価すべき点もありますが、やはり問題は「学力低下」であると思います。「ゆとり教育」・「生涯学習」など字面だけ見ると成る程と思いますが、まるで子供に「勉強しなくてもいいよ」と言っているようです。これは同時に、古来より日本人が誇ってきた「勤勉」・「努力」といった道徳的価値の軽視にも繋がるのではないのでしょうか。

週五日制の教育は国の指導ではなく、学校と地域が主役でなければなりません。地域の知恵を学校に生かし、活力を生み出す試みが各地で始まりました。春の卒業・入学に当地元の神社に参拝して決意を新たに学校に向かう例も聞きます。福島県の玉川村では入学式に全校生徒が自作の小旗を持って氏神様に参拝してから登校する習慣が百年も続いているとも言われています。人生の区切りにあたり、地域の人々に祝福を受けていることを自覚すれば、自ずと郷土に対する愛情が芽生えるはずで、親も先生も地域も、先ず郷土を愛する心を育てるといった、身近な問題から対応して欲しいと思います。

最後になりましたが、皆様方に於かれましては大神様の御神徳を漏れなく拝受され、愈々のご健勝とご多幸を祈念致し、御挨拶とさせて頂きます。

『親と子』

近年の我が国の経済は万年不況と言われていきます。それでもサラリーマンや自営業又、学生なども休日ともなると郊外の行楽地へ出かけたり、余裕のある人になると一週間とか二週間もかけて海外旅行にでかける人もいます。旅行となるとホテルか旅館に泊まりますが、旅館といっても上等な旅館から木賃宿まである訳で、上等な宿ではデラックスな部屋でご馳走も最高、気分も最高であります。しかし、懐がさびしい時は仕方がないから安い宿屋はないかとさがしますが、ここでは全てセルフサービスで建物も古く、壁には穴が開いていて隣の部屋の声も気になり、眠れないこともあります。ましてや酔っぱらいなどが泊まってくれた時には最悪であります。

このように旅館には上等から安宿までありますが、どこを選ぶかとなると、自分の財布と相談しなければなりません。お金がたく



さんあれば高級な旅館に泊まってもよいが、無理をすると後で財政が苦しくなるので、身分相応の宿屋を選ぶのが賢明であります。ところが世の中は皮肉なもので、行楽シーズンともなると安い宿屋でも満員だという時もあります。こんな時には頭を下げて「どんな部屋でもいいから泊めて下さい」と頼み込まなければなりません。人間がこの世に生まれてくる姿を考えると、どうやらこの宿屋のようなものではないかと思われまます。

世の中の誰もがお金持ちで、父親は資産があつて家も立派で、母親は優しくて美人であるという家に生まれたかと思うでしょう。ところがこのようなところへ生まれてきたいと思えば、生まれる人間の側にそれなりに相応しい資格がなければなりません。つまり生まれてくる人間の魂の素質が高くなければ、このような立派な家に生まれてくる訳にはゆかないのです。得てしてそういう立派な家は、宿屋で言えば宿賃がべらぼうに高いか、割合に泊まりにくる人が少ないものです。人間社会でいえば生まれる子が少ないか、何年経っても子供が出来ないか、出来ても早く死ぬということもあります。

反対に、長屋住まいで雨でも降ればだら漏りで、畳が濡れるようなボロ家には子供が五人も六人も居る。子供が多すぎて寝るところも無いなどと、愚痴ばかり言っている。こんな家はもうこれ以上は要りませんと云つて「満員おことわり」の札を掲げている安い宿屋のようなものであります。こういう家は、生んだ親も生まれてきた子供も容易ではありません。けれども自分にそれだけの資格しかなければ、どんなにいやだといつてもそこへ生まれてこなければならぬ子供もいるのです。

又、宿屋の立場から見れば、質の良いお客に泊まってもらおうと思つたら設備も立派に整え、従業員の資質の向上をはかり、実績をつくつて「さあ、ここは一流ホテルです。ここへお泊まりのお方は一流ですよ」ということになれば自然と客筋はよくなり、めつたにルンペンのような人は入ってきません。ところが壁にはしみが付き、畳は破れてガラス窓からは寒い隙間風が入るといふような宿屋では、

いくら質のよいお客をさそっても逃げられてしまうでしょう。逃げる客をうらんでも、どうしようもありません。自分の方によりお客を泊めるだけの資格が無いのです。

これと同じことで、親がどんなに良い子供が欲しいと思っても、立派なホテルのようにその素地がなければ良い子供は生まれて来ません。反対に、どんな子供でもいい、普通の子でありさえすれば良いと思っただけでも、親の側に資格がありさえすれば素晴らしい子供が生まれてくるものなのです。

人間は誰でも欲目というものがあります。ですから親はもつといい子が欲しかった。こんな出来の悪い子ならいらなかったなど不平を言ったりすることがあります。一方子供に言わせると、こんな貧乏で汚い家に生まれてきて損をした。おまけに親に早く死なれて辛いことばかりだ。こんな家はおもしろくないから、いつそのこと家出でもしてやろうか、などと不平を言う者もあるでしょう。どちらもあとの祭りです。生まれてしまってから不平や不満をたらたら並べてみても、今更始まりません。

子供が親に対して不平や不満を言うのは、金がないので安い旅館に泊まっておきながら、「この旅館はよくない」と文句を言っているのと同じであります。親が「あの子は本当に困ったやつだ、とても私の子供とは思えない」と子供に不平不満を言うのは、自分が安い宿屋の主人であることを忘れて、お客にケチをつけているようなものです。

どんな親を持つのも、どんな子供が授かるのも、これはすべて神様の思惑の世界であります。神様は丁度よいように、親と子供を組み合わせさせておられるのです。このことを十分に悟ることが肝心で、それがやがては幸福を掴む近道となる訳です。

私たちは日常の暮らしを通して少しでも不平不満を無くし、神様のみ教えを素直に受け取り幸福な家庭を築いてゆきたいものです。

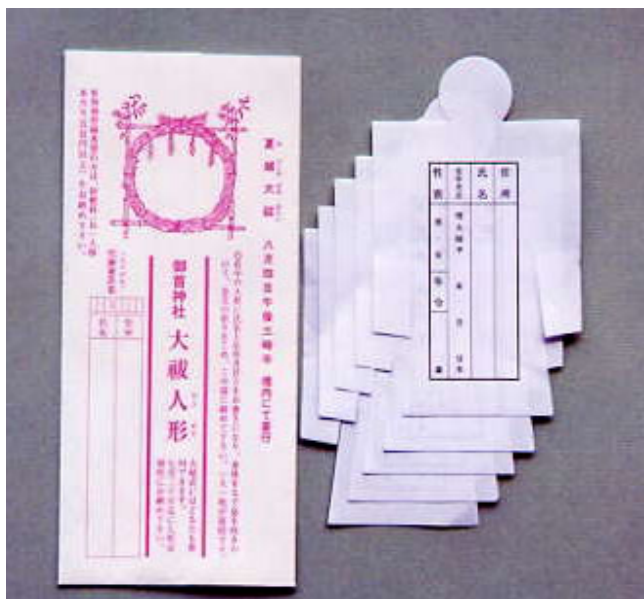
禰宜 上松 雅之

ちよつと一言

大祓神事の後にお焚き上げ致します人形（ひとがた）について、社務所より一言お願いを申し上げます。

当神社では、八月の第一日曜日に夏越大祓、そして十二月三十日に年越大祓の神事を斎行いたしておりますが、大祓のご神符をお送りするに当たり、「ひとがた」にご記入されたお名前が、僅かではございますが、判読に苦慮いたしております。

住所・氏名・年齢
・生年月日・性別を
楷書で明記の上「ひとがた」に息を三度吹きかけて、指定の封筒にお入れいただき、その表には郵便番号・住所・代表者氏名・を書き添えて、初穂料（お志し）を同封の上、締め切り日迄にご郵送いただくか、社務



所までご持参下さい。又、郵送で大祓神事終了の数日後に「ひとがた」が届くことが御座います。当神社と致しましてはお受けすることが出来ませんので、ご多忙とは存じますが、余裕をもってお早めにお申し込み頂きますようご協力の程お願い申し上げます。

権禰宜 高田 豊彦

祭事報告

- ▼年越大祓 十二月三十日 午後三時
- ▼元旦祭 一月一日 午前〇時
- ▼左義長 一月十五日 午前十時

古くなった神棚や、前年神棚にお祀りされていた御神札や一年間、御守護を戴いたお守り又、お正月にご家庭で飾られた注連縄や縁起物等をお焚き上げする左義長の神事が、参列者多数見守る中で執り行われ、午後三時頃までお焚き上げをいたしました。
尚環境汚染問題に対応しての分別作業が困難を極め、敬神婦人会会員を動員して、無事に時間内に終了出来ましたこともご報告申し上げます。



▼浄火祭 二月三日 午前十時

当神社の浄火祭は悪天候に見舞われることが多いのですが、今年は好天に恵まれたとは言え、厳寒にもめげず、氏子区域内の厄男達も身を引き締め、真剣な面持ちで真心を籠めて奉仕し、金幣串・紅白串・絵馬・帽子など奉納者の心願成就を祈念致しました。

- ▼祈年祭 二月十七日 午後三時
 - ▼御鍬神社例祭 三月十七日 午後三時
 - ▼例大祭 四月二日 午後三時
- 暖やかな日差しの中、多数の崇敬者の参列を得て、例大祭が厳かに斎行され、氏子の子供達による打ち囃子の奉納や、御神輿のご巡幸又、境内では特設舞台の演芸等で終日賑わっております。
- ▼南宮神社例祭 五月四日 午後三時
 - ▼お田植え祭 六月五日 午後三時
 - ▼農休み祭 六月十六日 午後三時

厄除開運祈禱

男子 大厄 二十五歳・四十二歳
女子 大厄 十九歳・三十三歳

古来より大厄とは災厄を蒙り易い時期でありまして一生涯での節目と云われており、忌み慎むべき年であります。一面から見ると生理上、社会上の節目の年として人生の転換期に相当するものであります。特に男子の四十二歳、女子の三十三歳の大厄は家庭的にも最も大切な時期であり、社会的にも重要な地位に置かれる時であります。故に日常生活に於いて一段と慎み深く、災厄を除く配慮を怠ってはならないのです。その為には被いを受け神威を仰いで、清らかな毎日を通すことが大切です。大厄の年の前後三年間は当神社にお参りされ、大神様のご神徳を益々戴いて下さい。

平成14年厄年に当る生れ年				
		前 厄	本 厄	後 厄
男子	42歳	昭和 37年	昭和 36年	昭和 35年
	25歳	昭和 54年	昭和 53年	昭和 52年
女子	33歳	昭和 46年	昭和 45年	昭和 44年
	19歳	昭和 60年	昭和 59年	昭和 58年

神社と人生儀礼

人生儀礼とは、人間がこの世に「いのち」を享け、そして死を迎えるまでの年月の過程に於いて、節目に当たるような大きな出来事を指しております。

人生の過程で一般的な儀礼には、着帯のお祝い（安産祈願）・出産のお祝い（安産御礼祈願）・お七夜の祝い（命名祈願）・お宮詣り（初宮詣り）・初節句の祝い（生育祈願）・七五三（七五三祈願）・入学卒業の祝い（学業成就祈願）・成人の祝い（成人奉告祈願）・結婚の祝い（神前結婚式）・結婚記念日（銅・銀・金婚式）長寿の祝い（還暦・古稀・喜寿・傘寿・米寿・白寿）・厄祓い（厄除祈願）などが挙げられます。これらの儀礼は、各々



独立したのではなく、お互いが関わりを以て、全体で一つの大きな人生の儀礼を成しており、人生の区切り若しくは節目節目には必ず儀礼が発生します。

前述の儀礼は、必ずしも全て行わなければならないというものではありませんが、実際のところ疑問を抱くことなく、当然のように行われていることと思われまます。

又、これら数々のお祝いや儀礼をみると、その場所が氏神様の大前であったり、境内であります。但し、総ての神社が実施出来るとは限りませんが、人生を過ごす上でいかに氏神様と共にあり、かつ御加護をいただいているのかを垣間見ることが出来ます。

しかしながら、大変残念であります。現代では大事なお祝い事・儀礼を省略するという悲しい傾向があるのも事実です。

皆様には是非とも儀礼を通じ、人生は如何に氏神様と共にあるかということをお子さんそしてお孫さんにまでも変換することなく受け継いでいただきたいものです。

尚、当神社に於きましても、儀礼に係するものとして、安産祈願・初宮詣り・七五三のお祝い・学業成就祈願・長寿祈願・厄除祈願などのご祈禱が毎日午前九時より午後五時まで執り行っておりまます。前記以外の御祈禱につきましてもお気軽にお尋ね下さい。

権禰宜 大野弘樹

退任職員挨拶

平成六年に奉職させて頂いて、丸八年の月日が経ちましたが、この度実家の家業を継ぐ事となり退任させて頂く事になりました。帰郷した後も御首の大神様の御神徳を忘れる事なく、日々家業に励む所存でございます。

最後になりましたが氏子と崇敬者の皆様の御健康と御多幸を祈念致しまして退任のご挨拶とさせて頂きます。

権禰宜 谷口哲也

御首神社に奉職させて頂いて、早くも三年が過ぎましたが、今度家庭の事情に依り、地元の神社に奉職する事になりました。これも御首の大神様の御導きと心より感謝致しております。皆様方に於かれましては益々の御清祥と御多幸をお祈り申し上げます。退任のご挨拶とさせて頂きます。権禰宜 馬場典之

新入職員挨拶

今春、皇學館大学を卒業して御首神社へ奉職することになりました。今後は神職としての自覚を持ち、真心を込めて神明奉仕出来るよう頑張つてゆきたいと思っております。お願い申し上げます。出仕 大島洋紀

祭事案内

▼西宮神社例祭 七月十七日 午後 三時

▼末廣稲荷神社例祭八月 四日 午後 三時

▼夏越大祓 八月 四日 午後三時半

今年は、八月四日の午後三時三十分より境内参道西側の祓所にて、夏越大祓（なごしのおおはらい）を斎行いたします。

この神事は、半年間の日々の生活で、本人が知らず知らず心と体についてしまう罪穢・災・厄を祓い清めて、暑い夏を健康で無事に過ごせるように、祈願するものであります。

当日参道に舗設された茅の輪くぐりは、神事終了後五時頃までお祓いを執り行っており



ますのでぜひ御参加下さい又、罪や穢を託される人形（ひとがた）は、拝殿の前と社務所に御座いますので御自由にお待ち下さい。

▼長寿祈願祭 九月十五日 午後四時
▼神明神社例祭 十月十七日 午後三時
▼七五三参り 十一月一日～三十日



七五三のお祭りは、日本古来よりの人生儀礼の一つであり、子供の成長過程に節目をつけ、ご神前に無事成長をご報告し、今後益々大神様の御守護を戴き、立派な大人になれるよう祈願をするお祭りです。昔は男児三歳・五歳、女児三歳・七歳にお祝いされておりましたが、現在では男女とも三歳・五歳・七歳にて参拝される方々も多数おられます。当神社でも、子供の無事成長と今後の御守護を祈願する七五三のご祈禱を十一月中執行いたします。

又、十一月十日の日曜日には境内で記念撮影・コリントゲームを行いますので多数のご参拝をお待ち致しております。

▼崇敬会大祭 十一月 三日 午後二時
十一月二十三日 午後三時

権禰宜 大野 弘樹

崇敬会入会の御案内

入会の方法

御首神社の御神徳に感謝し当社を崇敬される方は、どなたでも入会出来ますので御参拝の折、社務所にお申し出下さい。

尚、郵便にも受付出来ますので申し込み用紙を御請求頂ければ、送付させて頂きます

会費（年会費）

- 一、個人会員 三千円以上お志し
- 一、家族会員 五千円以上お志し
- 一、特別会員 一万円以上お志し
- 一、法人会員 二万円以上お志し
- 一、名誉会員 三万円以上お志し

会員の特典（抜粋）

- 一、神前に入会報告祭が執り行なわれます。
- 一、誕生日には特別祈禱が行なわれ、御祈禱神符が授与されます。
- 一、春の例大祭、秋の崇敬会大祭には御案内申し上げ、参拝の方々には大祭特別祈禱神符及び御供物等が授与されます。
- 一、夏越大祓、年越大祓には御案内申し上げます。
- 一、参拝の折、会員証を御呈示になられますと、会員は昇殿参拝が許されます。

御首神社社務所

岐阜県大垣市荒尾町一三三〇
TEL(〇五八四)九一―三七〇〇

ホームページ www.mikubi.or.jp
Eメール syamusyo@mikubi.or.jp